

キャラクター名
桜井 凜音 (さくらい りんね)

プレイヤー名

シンドローム	パロール ノイマン		ワークス	UGNチルドレンC	カヴァー	高校生
	オプショナル		年齢	17	性別	女
覚醒	渴望	衝動	殺戮		初期侵食率	35 %
出自	住職の娘	経験	古強者	邂逅	家族	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	0	0	1			1	行動値	10
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	10
精神	5	1	2			8	戦闘移動	15
社会	2	0	0			2	全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	5		交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
折檻じゃ!	R C	8r+11		6		黒の鉄槌使用時
愛染明王の慈悲を見よ	R C	8r+11		10		覇皇幻魔眼使用時

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
触媒	P	N		
PC1 月岡 蒼	P 庇護	N 不安		
家族	P 幸福感	N 悔悟		
先輩のUGNチルドレンたち	P 信頼	N 不安		
PC3 西久保 尤利	P 慕情	N 悔悟		
PC4 黒岩 肇	P 親近感	N 恥辱		
黒髪の少女	P 好奇心	N 隔意		

最大財産P: 8 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト:パロール	2	2	メジャー	-	0	-	-	
効果: C値-LV(下限7)。								
斥力跳躍	1	1	マイナー	至近	自身	自動成功	-	
効果: 移動距離+[Lv×2]m。								
スキルフォーカス	3	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: 技能:RC。判定の達成+[IV×2]								
黒の鉄槌	2	1	メジャー	視界	-	対決	-	
効果: 攻撃力+[LV×2+2]。エンゲージ内×								
覇皇幻魔眼	2	5	メジャー	-	単体	対決	80	
効果: 攻撃力[lv×5]。エンゲージ×。シーン1回。								
暗黒の槍	2	3	メジャー	-	-	対決	-	
効果: 1シナリオLV回。装甲無視、自身のHP-5。								
帝王の時間	1	-	メジャー	至近	自身	自動成功	-	
効果: 集中力が凄い								
代謝制御	1	-	常時	至近	自身	自動成功	-	
効果: 凄く健康								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

歴史ある古寺「桜井寺」の住職の娘であり、若くしてオーヴァードに目覚めた少女。
一人称は「拙僧」「うち」。二人称は「お前」「あんた」。

母親は凜音が生まれてすぐに亡くなり、住職の祖父と入り婿の父に大切に育てられる。
地元住人の集会所、何でも屋としても有名な実家だからか、地元では「桜井さんこの凜音ちゃん」として有名で老若男女問わず人気がある。山奥から彼女の名を叫ぶ住職の声が聞こえたなら、今日も一日平和であるというのが地元住人の共通認識だ。

幼少の彼女を一言で表すのなら、「天上天下・唯我独尊」。破天荒が服を着て歩いているともっぱらの噂で、曲がったことが許せない彼女は相手を問わず突っかかっては「折檻」を行っていた。しかし、行き過ぎたそれらの行為は彼女を天狗にし、山を荒らしに入った暴漢を退治しようとして返り討ちに遭い死亡するという結果を招いてしまった。

死の間際、彼女は己を省みた。過ぎた行いを、父や祖父よりも先に逝く親不孝を。そして何も成せぬまま死を迎え、母に誇ることさえできない己を。そして人の道を外れ、悪徳の限りを尽くすものを強く恨み、呪い、憎んだ。苛烈なまでの衝動を覚えた彼女は、一つの「悟り」を得る。再び彼女が目覚めた時、その「悟り」は彼女の力となり、技となり、「オーヴァード」という新たな「道」となった。

オーヴァードとして目覚めた彼女は、祖父や父の反対を押し切りUGNチルドレンとして活動する。レネゲイドコントロールに優れた彼女は、精神統一を図ることで空間に存在する重力に微細な調整を加える。彼女が実験を通して得たのは、相手を殺す技ではなく、相手と対話するための手段であった。

長い実験を経て彼女はあえて実家に戻る選択を取る。それは、兼ねてよりの夢であった僧侶になるという夢をかかなるためであったが、祖父と父はそれに強く反対した。それは、UGNチルドレンになる時以上の反対であり、再び危険な道を行ってほしくないという二人の思いを凜音は無下にできず、その夢を諦めた。しかし彼女はそれで道を閉ざすことはせず、僧侶でなくとも人を悟りへ至らせることは可能であり、また死者の行く末を案じることは出来るとし、自らの意志で寺にやってくる見習いたちと修行をし、そして今まで以上に地元の人々との関係性を大切にすることを選んだ。